

グループ討議 課題

テーマ:

機関リポジトリ構築に向けての
学内調整－他部署と図書館との連携

グループ名 [2E]

2018年度機関リポジトリ新任担当者研修

JPCOAR オープンアクセスリポジトリ推進協会



現状：

グループ2E（メンバー4名）

- ・これから構築予定（1名）
- ・加入済み、入力は今回の研修以降で（1名）
- ・加入後、運用数年目（1名）
- ・現在は他部署が運用中（1名）

私達は、今

- ・リポジトリシステムの管理・運用を行う
 - ・リポジトリに教育・研究成果を登録できる
- ためのスキルアップを目指し、受講中。

共通の課題：

機関リポジトリ構築に向けての学内調整は？
他部署と図書館との連携は？

大学事務局

図書館は運営事務のみ！

許諾や登録は学内の各部署

だから、大丈夫！

運営ってどうすればいいの？

大学の規模は？ 予算は？

マンパワーの確保は？

図書館

これから(方向性):

情報資源の保管現場として 生産現場とどう関わっていけるか？

機関リポジトリ構築に向けて

- ・著作権の許諾等も含め、スムーズにコンテンツを集めたい
- ・上層部へ機関リポジトリの重要性を理解してもらいたい
理由: 図書館が主で動く可能性が大きいから
- ・課内調整部分を所属長がマネジメントしてほしい
※課員から所属長へ上手に促す

具体的解決策：

- ・各大学の使命／責務
- ・研究成果の活用に関する考え方
- ・教員への理解（大学のリポジトリでの公開）

→ 組織としての管理・活用
共通理解

その理由：

オープンアクセス化推進 & オープンサイエンス推進体制構築

皆で一緒に考えよう！（基本姿勢）

※オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/>

効果：

リポジトリ構築への共通理解が深まれば、担当者負担が軽減される！

例)

- ・活用及び管理体制不足
- ・考え方、連携不足
- ・研究データ管理、CCライセンス理解不足
- ・図書館職員の理解度の差に関する懸念

→ 一気に解消！

まとめ：

時代はオープンサイエンス！

学内関係者の認識が高まり、リポジトリが活用される

学内の体制・規程も整う

良質な研究成果を発信することで、キャンパスの立地優位性や垣根を飛び越え、新しい発展のチャンスが生まれる。

協働による知の創出、地位向上やブランド化につながる！